

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成13年度病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、病害虫発生予報第6号(9月)を発表したので送付します。

平成13年度病害虫発生予報第6号(9月)
主要病害虫の発生現況及び予報の概要

【普通作物】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
普通期水稻	穂いもち 紋枯病 トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	並 並 少ない やや少ない 前年並	並 並 少ない やや少ない 並
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや少ない 並	並 並

斑点米カメムシ類については、前年対比。

【普通作物 - 普通期水稻】

1 穂いもち

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の普通期水稻調査の結果、穂いもちの発病穂率は0.12% (平年：0.16%、前年：0%)、発生ほ場率は41.67% (平年：33.11%、前年：0%)であった。

イ また、葉いもちの発病株率は6.65% (平年：10.19%、前年：9.30%)、発生ほ場率は31.75% (平年：49.71%、前年：34.92%)であった。

ウ 気象予報では向こう一か月の平均気温は平年より高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 穂いもちは直接収量に影響を及ぼすので、出穂期前後の基幹防除を徹底する。

イ 防除薬剤については「平成13年度普通作物病害虫防除基準」を参照する(以下の病害虫についても同様)。

2 紋枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の普通期水稻調査の結果、発病株率は7.00%(平年：11.31%、前年：7.35%)、発生ほ場率は59.38%(平年：69.00%、前年：61.54%)であった。

イ 気象予報では向こう一か月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

出穂期以降も病斑の上位葉への進展がみられる場合には補正防除を行う。

3 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少なく、前年並

(2) 予報の根拠

8月5半旬の普通期水稻調査の結果、10株当たり成幼虫数は1.78頭(平年：13.77頭、前年：1.05頭)、発生ほ場率は42.19%(平年：34.32%、前年：27.69%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

防除を行っていないほ場で、要防除水準(成幼虫数が100株当たり1,000頭)を超える場合は、早急に防除を実施する。

4 コブノメイガ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

8月5半旬の普通期水稻調査の結果、食害株率は14.73%(平年：26.04%、前年：13.46%)、発生ほ場率は79.69%(平年：84.62%、前年：69.23%)であった。また、上位2葉の食害葉率は0.83%(平年：1.78%、前年：0.66%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

補正防除を行う場合は、収穫前使用日数を確認して薬剤を選定する。

5 斑点米カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果、クモヘリカメムシ・ホソハリカメムシ・シラホシカメムシの3種は本田で0.84頭(前7か年平均：0.89頭、前年1.10頭)、畦畔で1.64頭(前6か年平均：3.77頭、前年：2.16頭)、雑草地で11.78頭(前6か年平均：16.82頭、前年：10.18頭)であった。アカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメのカスミカメ類は本田

で0.03頭（前年：0.39頭）、畦畔で8.42頭（前年：3.32頭）、雑草地で49.15頭（前年：12.00頭）であった。
イ 気象予報では向こう一か月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

（3）防除上注意すべき事項

ア 防除適期は穂揃期とその7～10日後である。

イ 水田周辺にイネ科植物があるほ場や例年斑点米の発生が多い地域では、2回防除を徹底する。

ウ 一部カスミカメ類の発生が多い地域があり、薬剤防除を行う場合は、畦畔及び雑草地などカメムシ類の発生源も含めた防除を行うとより効果が高い。

【普通作物 - 大豆】

1 ハスモンヨトウ

（1）予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

（2）予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、25株当たりの幼虫数は9.18頭（前7か年平均：14.75頭、前年：11.28頭）であった。

イ 筑紫野市のフェロモントラップによる8月1～5半旬の誘殺虫数は290頭（平年：370.4頭、前年：506頭）であった。（図1参照）。

ウ 気象予報では向こう1か月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

（3）防除上注意すべき事項

ア 分散前の若齢幼虫が群棲している白変葉を見つけた場合は直ちに除去する。

イ 薬剤散布は防除効果の高い若齢幼虫期に実施する。

ウ 各地域に設置されているフェロモントラップによる誘殺虫数を利用する場合は、誘殺ピクから2週間目が防除適期となる。

エ 防除に要する期間が長くなる場合には、防除適期が過ぎて中老齢幼虫期になり、防除効果が劣ることになるので、誘殺ピクから10日目頃から早めに防除を開始する。

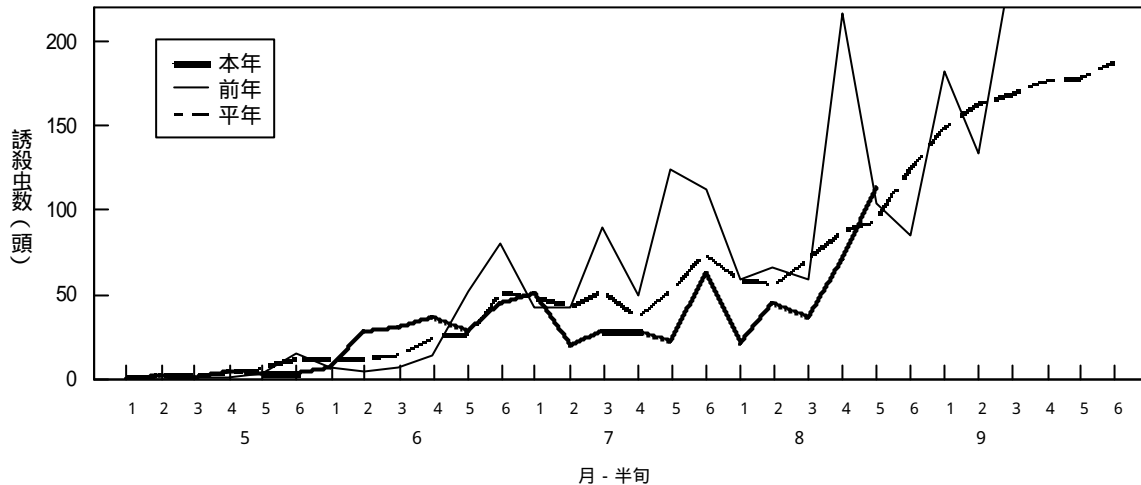


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移(筑紫野市)

2 吸実性カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、25株当たりの主要3種カメムシ類（アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ）の成幼虫数は0.12頭（平年：0.64頭、前年：0.10頭）、発生ほ場率は11.76%（平年：29.54%、前年：11.76%）であった。

イ 気象予報では向こう1か月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼莢期から子実肥大期にかけての加害による被害が大きいため、この時期に防除を実施する。なお、防除に当たっては着莢部に薬剤が十分付着するように散布する。

イ カメムシ類は広範囲に移動するので、薬剤散布はできるだけ広い地域を一斉に行うと効果が高い。

3 その他

なお、開花結実期にかけ降雨が続くと紫斑病の発生が多くなるので、開花期～子実肥大期にかけて、1～2回ハスモンヨトウ、カメムシ類との同時防除を行ってください。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	黒点病 ミカンハダニ	やや多い 並	やや多い 並
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ	やや少ない やや少ない 並	やや少ない やや少ない 並
カンキツ カキ等	カメムシ類	少ない	少ない

【果 樹】

1 カンキツの黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査の結果、発病果率は平均9.6%（平年：4.8%、前年：3.7%）、発生ほ場率は41.2%（平年：47.3%、前年：57.9%）であった。

イ 気象予報では、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源である枯れ枝を極力除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mm毎に薬剤散布を行う。

ウ 極早生種は収穫期に入るので、農薬安全使用基準に留意して薬剤を選定する。

2 カキの炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査の結果、発病新梢率は平均1.0%（平年：1.1%、前年：0.1%）、発病新梢の認められたほ場は6.7%（平年：20.1%、前年：6.7%）であった。発病果率は平均0.2%（平年：0.9%、前年：0.3%）、発病果の認められたほ場は20.0%（平年：34.9%、前年：26.7%）であった。

イ 気象予報では、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病枝、罹病果は伝染源になるので必ず除去する。

イ 連続した降雨があると蔓延するおそれがあるので、予防散布を行う。

ウ 早生種は収穫期に入るので、農薬安全使用基準に留意して薬剤を選定する。

3 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査の結果、寄生果率は平均7.4%（平年：5.3%、前年：9.1%）、発生ほ場率は93.3%（平年：49.7%、前年：80.0%）であった。

イ 気象予報では、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多いほ場では、すす果の発生を防ぐためできるかぎり除去する。

イ 西村早生は収穫期に入るので、本虫対象の防除はしない。

4 カンキツ、カキのカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 筑紫野市吉木の予察灯・集合フェロモントラップにおける8月1半旬から5半旬までのチャバネアオカメムシの累計誘殺虫数は、下表のとおり少なかった。しかし、予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺虫数は前年より多かった。

イ 8月5半旬のヒノキ球果のビーティング調査では、主要3種（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の寄生頭数は、1地点当たり18.3頭（前年7.4頭、平年11.6頭）であった。

ウ 8月下旬のヒノキ球果における1果当たり口針鞘数は、病害虫防除所が調査した県内13カ所の平均が3.1本、福岡農総試では、3カ所（吉井町、浮羽町、田主丸町）の平均が4.9本と少なかった。

エ 8月下旬のヒノキ球果の口針鞘数とビーティング調査の結果から、9月末までは離脱する可能性は低いと思われる。

オ 一部の地域では、7月下旬よりツヤアオカメムシによるカキへの加害が認められた。

カ 気象予報では、9月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の活動に好適な条件である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 一般的なほ場では、9月前半まではカメムシ類を対象とした防除の必要はない。

イ 今後の発生情報に注意するとともに、果樹園内外の発生状況の把握に努め、発生状況に応じて防除を行う。

ウ 防除薬剤は、平成13年度果樹病害虫防除基準を参照し、農薬安全使用基準（収穫前使用規制日数等）を遵守する。

予察灯及び集合フェロモンによるカメムシ類の誘殺虫数（筑紫野市吉木）

調査時期	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ			
	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ		
8月1半旬	2(700)	1(596)	頭	12(17)	0(2)	頭	30(240)	0(5)頭
2	14(662)	0(1,014)		15(26)	0(1)		36(171)	0(2)
3	35(458)	0(401)		38(33)	0(0)		80(95)	0(0)
4	96(115)	0(146)		32(16)	0(0)		95(46)	0(1)
5	239(209)	0(150)		46(37)	0(0)		128(51)	0(2)
合計	396(2,144)	1(2,307)		143(129)	0(3)		369(603)	0(10)

予察灯：20Wブラックライト
 ()前年の誘殺虫数

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年)	発生予想 (平年)
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	やや少ない 並 やや少ない やや少ない 並 並	やや少ない 並 やや少ない やや少ない 並 並

平年値（過去10年間の平均）がない場合は、前年までの平均値を用いた。

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査では、1m²当たり病葉数は平均0.2葉（平年：3.9葉、前年：0葉）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、萌芽から1～2葉期までに薬剤防除を実施する。

イ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用しない。

ウ 防除薬剤は「平成13年度茶病虫害防除基準」を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める（この項は以下の病虫害についても同様）。

2 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査では、寄生葉率は平均2.7%（平年：3.3%、前年：2.5%）、50葉当たり虫数は平均5.0頭（平年：9.2頭、前年：4.4頭）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場によって発生にばらつきがあるので、発生状況をよく調べ、寄生葉率が2%以上の場合は防除を行う。

イ 各種薬剤に対するハダニの感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用しない。

3 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年並、前年よりやや早い

イ 発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月1半旬～5半旬までのフェロモントラップによる誘殺数は、筑後市では199頭(前7か年平均：308頭、前年：371頭)、八女市では135頭(前年：366頭)であった。

イ 8月5半旬の調査では、1㎡当たり巻葉数は平均0.4葉(平年：1.0葉、前年：0.1葉)であった。

ウ 気象予報では、9月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉がみられたら直ちに防除を行う。

イ フェロモントラップによる調査では、成虫の発蛾最盛期は8月6半旬～9月2半旬頃と思われる。ほ場内の成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

4 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬のたたき落とし法による調査では、平均0.4頭(平年：0.3頭、前年：0.1頭)の発生であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生のみられないほ場もあるので、萌芽期にたたき落とし法(A4版白紙上)で発生状況を調べ、4頭以上発生している場合は防除を行う。

5 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬のたたき落とし法による調査では、平均5.0頭(平年：3.6頭、前年：1.9頭)、発生ほ場率は88.0%(前年：88.5%)であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

たたき落とし法(A4版白紙上)で10頭以上発生しているほ場も見られるので、発生状況をよく調べ、発生の多い場合は防除を行う。

【野菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
ナス (露地)	うどんこ病 綿疫病 ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類 ハダニ類	並 並 やや少ない 少ない 並	並 並 やや少ない 少ない 並
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	少ない 並 少ない 並 並	少ない 並 少ない 並 並
ネギ	シロイチモジヨトウ* ネギハモグリバエ	並 やや多い	並 やや多い

- ・ 平年値（過去 10 年間の平均）がない場合は、前年までの平均値を用いた。
- ・ * はフェロモントラップによる誘殺虫数である。
- ・ アスパラガスは、前年より調査のため、前年値との比較である。

【野菜】

1 露地ナスのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8 月 5 半旬調査の結果、寄生株率は平均 16.3%（平年：14.2%、前年：12.0%）であった。

イ 気象予報では、9 月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 寄生された葉を摘葉後放置すると、本虫が移動し再び寄生するので、土中に埋没したり、ビニル袋等に入れて密封し、処分する。

イ 多発生後は防除が困難であるため、発生初期のうちに防除を徹底する。

ウ 本害虫の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだ口 - テ - ション散布を行う。

2 アスパラガスの斑点病

(1) 予報の内容

発生量：前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 8 月 5 半旬調査の結果、発病株率は平均 21.7%（前年 51.7%）であった。一部ほ場で多発している。

イ 気象予報では、9 月の平均気温は平年より高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を的確に行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤による防除を徹底する。

3 アスパラガスのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生株率は平均11.3%（前年：3.3%）であった。一部のほ場では、多発している。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年より高いと予想されている。

4 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生株率は平均32.8%（前年：35.0%）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年より高いと予想されている。

5 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 福岡市、朝倉町（2ヶ所）および行橋市の8月2半旬～5半旬のフェロモントラップによる誘殺虫数は平均105.0頭（平年：133.7頭、前年：231.0頭）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

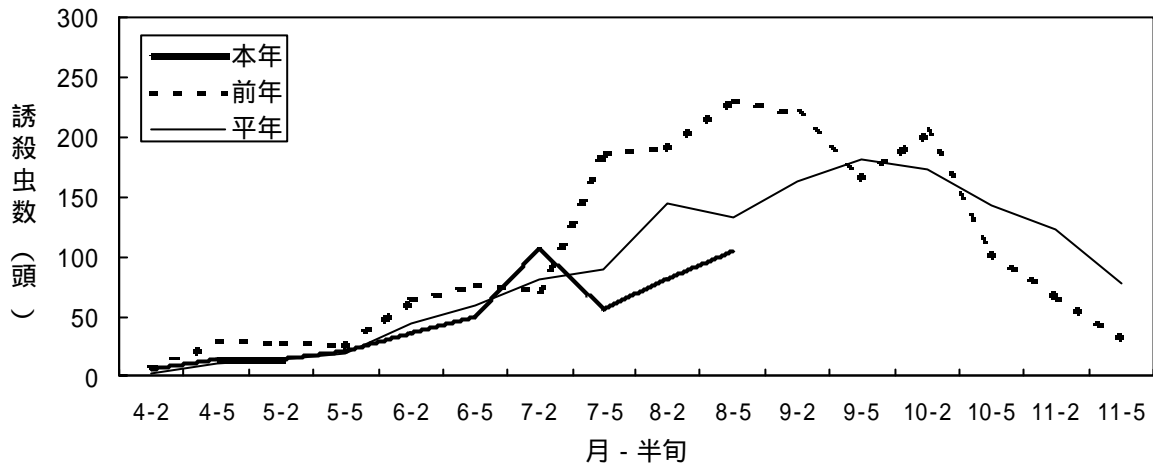
(3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

ウ 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫はそのまま葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

エ 本害虫の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移

6 ネギのネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生株率は平均5.3%（平年：1.8%、前年：5.5%）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼苗期に防除を徹底する。

イ 収穫終了後にハウス内土壌の表面を1週間程度ビニルで覆い、土壌中の蛹の死滅を図る。

9月の気象予報（1か月）

（予報期間 8月25日～9月24日）

2001年8月24日
福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年より高く、降水量、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	10	40	50
降水量	30	50	20
日照時間	30	50	20

- < 1週目の予報 > 8月25日～8月31日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 9月1日～9月7日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 9月4日～9月21日
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量（mm）	日照時間（h）	1週目	2週目	3-4週目
25.0	195.5	171.5	26.9	25.9	24.1

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び電話番号は下記のとおりです。

ホームページアドレス

www.jpnpn.ne.jp/fukuoka

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）